

「千葉市まちづくりシンポジウム」を開催します！ ～中央公園プロムナードの未来を考える～

千葉市では「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成による都市の再生を図るため、「車中心」から「ひと中心」へと転換するウォーカブルなまちづくりを推進しています。

このたび、中央公園プロムナードの未来について考えるシンポジウムを開催しますので、お知らせします。

1 シンポジウムの概要

千葉都心の「まちの顔」である中央公園プロムナードにスポットを当て、公共空間の活用やウォーカブルな取り組みに活躍されている方々をお招きし、市長とともに中央公園プロムナードのこれまでと未来について語ります。

(1) 日時

令和6年11月16日（土）15:00～17:30 ※14:30開場

(2) 場所

市役所1階 正庁

(3) 対象

まちづくりに興味がある方、千葉駅前大通りをご利用の方など、どなたでも参加可能です。

(4) 定員

約150人（事前申し込み・先着順）

(5) 参加費

無料

(6) 申し込み方法

市ホームページからお申し込みください。

【URL】 https://www.city.chiba.jp/toshi/toshi/keikaku/20241116_symposium.html



中央公園プロムナードの位置図

2 プログラム

(1) 基調講演（千葉大学名誉教授 ^{きたはら としお} 北原 理雄）15：10から

歩いて楽しい街～千葉都心の再生にむけて～

(2) パネルディスカッション 16：00から

①パネリストからの話題提供

②クロストーク「中央公園プロムナードの未来」

<モデレーター>

・千葉大学大学院工学研究院建築学コース准教授 ^{まつうら けんじろう} 松浦 健治郎

<パネリスト>

・広島都心会議シニアフェロー、一般社団法人エリアマネジメントラボ理事 ^{やまなか ゆうた} 山中 佑太

・株式会社 SOCI 代表取締役 ^{おおやぶ よしひさ} 大藪 善久

・京葉銀行 法人営業部地域振興担当部長 ^{ふるや すぐる} 古屋 秀

・千葉市長 神谷 俊一

<参考>これまでの中央公園プロムナードを活用した空間づくり

1 パラソルギャラリー

パラソルギャラリーは、毎年、10月第一土・日曜日に開催される屋外アートギャラリーイベントです。千葉駅前大通りの歩道に約50本の白いパラソルに並べ、クリエイターである出展者にアートギャラリーとして利用してもらうことで、普段の街路とは違うお洒落な空間づくりを行っています。平成12年から活動がスタートし、現在は、市民と千葉大学が主体として、千葉市はサポート役として活動を続けています。今年度は、10月6日に開催しました（10月5日は雨天中止）

2 CHIBA SDGs Parklet Project

CHIBA SDGs Parklet Project では、京葉銀行を中心に県内企業が連携し、フードロスを中心としたSDGsに関連する地域の課題解決に取り組むプロジェクトです。令和4年7月から3カ月に1回程度、千葉駅前大通りの歩道を活用したマルシェイベントを開催するほか、家庭などで余っている食料品を持ち寄り施設などに寄付するフードドライブや、飲食店と連携したこども食堂を実施しています。今回は、令和6年11月22日（金）に開催が予定されています。

3 ちば富士見屋台横丁

ちば富士見屋台横丁は、千葉駅周辺の経営者等がつくる「r223」が主催し、「千葉の街を元気に」「地産地消」をコンセプトとして、千葉駅大通りの歩道に21台の屋台を並べ、地元の名店が出店するイベントです。平成29年から開催しており、これまでに多くの市民が訪れ、千葉駅周辺地域に夜の賑わいが創出されています。今回は、令和6年11月15日（金）～17日（日）に開催が予定されています。

4 社会実験「CHU-PRO 3 DAYS」

令和6年11月1日～3日に、中央公園プロムナードの一部で、公共空間（歩道）を活用し、ひと中心とした居心地よく歩きたくなるまちなかを創出するための社会実験として「CHU-PRO 3 DAYS」を実施しました。希望者が自由に利活用できる「プチ広場」（人工芝を敷いた3m×3mの区画）を設置し、公募により無償の貸し出しを行いました。どなたでも利用できる椅子・テーブルや動かせる植栽を設置し、休憩・滞在ができる空間を創出しました。また、ストリートピアノや紙芝居、オブジェの展示を実施しました。